

事務事業	105	道路の改良					
章	3	安全で快適な、みどりのあるまち					
大項目	03	快適な生活環境づくり					
施策	02	人にやさしい道路、交通施設の整備					
事業内容							
目的	道路の舗装構造のレベルアップや副員構成を変更することによって、安全かつ快適な道路空間を形成し、併せて景観の向上を図ります。						
対象・手段	対象：区道 面積：1,742,933.25㎡、延長：290,790.52m〔平成18年度4月1日現在〕 手段：道路構造及び舗装構造の改良、舗装のカラー化、歩道の拡幅						
成果(事業が意図する成果)							
道路の改良は、歩行者や車両はもとより、沿道にとって良好な道路空間を提供します。具体的には、歩道の拡幅やカラー舗装などを行い、安全で快適な歩行空間を創出します。また、排水性(低騒音)や透水機能を持った舗装によって、環境負荷の軽減が図られます。							
事業成果指標							
指標名		定義			目標水準		
平成14年度から平成19年度までの目標達成状況		平成14年度から19年度までの計画路線数/年度別実施路線数累計			(平成19)年度に (28路線実施)の水準達成		
					()年度に ()の水準達成		
					()年度に ()の水準達成		
成果の達成状況							
		単 位	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	備 考
事業成果指標	目標値1	路線	28.00	28.00	28.00	28.00	
	実績1	路線	13.00	19.00	24.00	26.00	
	= /	%	46.43	67.86	85.71	92.86	
	目標値2		0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績2		0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
	目標値3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
事業の実施内容							
平成17年度	舗装改良工事 2路線、 歩道拡幅整備工事 1路線、 道路新設工事 2路線 工事の一時中止に伴い平成18年度6月末へ工期延伸。						
平成18年度	舗装改良工事 2路線						

部名称		環境土木部		課名称		道とみどりの課	
		単 位	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	備 考
トータルコスト	事業費	千円	138,003	178,263	221,220	94,631	
	人件費	千円	41,690	50,028	50,028	49,680	
	事務費	千円	0	437	476	426	
	減価償却費等	千円	0	0	0	0	
	総計 = + + +	千円	179,693	228,728	271,724	144,737	
	受益者負担	千円	0	0	0	0	
	純計 = -	千円	179,693	228,728	271,724	144,737	
	受益者負担率 /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
財源内訳	一般財源 = -	千円	179,693	228,728	271,724	144,737	
	特定財源		0	0	0	0	
	一般財源投入率 /	%	100.00	100.00	100.00	100.00	
職員	常勤職員	人	5.00	6.00	6.00	6.00	
	非常勤職員		0.00	0.00	0.00	0.00	
事業に関する検討課題							
<p>本事業による舗装や道路施設の老朽化による更新だけでは、歩行者の安全確保や安心して歩ける歩行空間の確保するなどの抜本的な改良は行なえません。電柱の地中化をはじめ、荷捌駐車帯の設置等、歩道の有効幅員の確保、街路樹のあり方など沿道をはじめ関係機関との協議や合意がなければ進められません。来年度以降は、これらの協議結果を反映しながら、整備計画を策定しています。</p>							
評価基準に基づく評価と理由 「3.2.1」の3段階評価です。	達成度	2	計画路線の整備年度の変更等は、地元の要望や地区別による策定計画等を十分に反映させるため、柔軟に対応します。				
	効率性	2	道路の改良による効果は、利用者や沿道に直接反映するため、事前の説明や要望を受けることが不可欠です。一方で、工事期間中における影響を最小現にするためにも、関係企業者との調整を図り、沿道へ協力を求めるべきと考えます。				
	実施の成果	3	排水性舗装のカラー化をはじめ、最新の工法は、景観面や環境面においても成果を上げることが可能です。 今後は、沿道に対し、新工法を積極的に提案し、事業の効果を高めたいと考えます。				
	行政の関与	3	道路の改良は、現状の課題や沿道の意見を十分に踏まえて、改良内容と実施路線を選定し、計画的に整備していきます。				
	妥当性	3	交通車両の増大や渋滞が蔓延する現状では、歩行者の安全確保を目的とした道路構造の改良は、妥当と考えます。また、環境に配慮した排水・透水・保水機能を有した舗装の実施や環境物品の積極的な採用を図ります。				
	施策寄与度	3	高齢化の進む現状において、歩行者の安全性と快適性を主眼とした改良は、早急かつ計画的に実施すべきです。				
総合評価	環境に配慮した排水性舗装の整備は、老朽化による全面的な舗装の打ち換えと併せて効果あったと評価できます。今後は、電線類の地中化事業を加え、総合的に効果の高い道路整備を行いたいと考えています。また、エコセメントや溶融スラグなど、環境に配慮した材料の使用を拡大し、ヒートアイランド現象の抑制と循環型リサイクル社会の形成に大きく寄与していきます。						B 過年度評価 17年度 B 16年度 B 15年度 14年度
	改革方針	道路改良を、地球環境・景観などの幅広い視野に立ち、バリアフリーの観点を念頭に置きながら道路の利用状況、社会情勢、沿道住民の要望を踏まえつつ計画的に進めます。そのために、 道路の無電柱化整備事業で行う路線では、予備設計の結果を基に、地元との協議に早期に入り、メリットを確認の上、工事への協力をお願いしていきます。 無電柱化が無理な路線では、沿道住民との合意形成を図るために、計画的な調整を実施します。 環境や景観に配慮した工法や材料の施工後の効果測定を行い、その効果について検証します。					